

第6回「エリトリアの中の日本」

前回は外国人として暮らすアスマラの生活の一部を紹介しました。今回はエリトリア人が見る日本と日本人の話題です。

エリトリアの存在を知らない人たちが日本にはたくさんいると思います。エリトリアは建国以来10年の新しい国ですし、地理的にも日本とは離れているため、これはある意味で当然かもしれません。エリトリア人の多くは外国といえば即座に「イタリア」を連想する人が多いのですが、さすがに世界の主要国のことは知っています。従って、日本も認知されています。ところが、前回も書いたように、エリトリア人は東・東南アジアの人たちをひとくりに「中国人」とみなしているため日本の存在を知っていても、日本と中国の境界がぼやけているようです。ただ、日本製品に対する信頼は絶大なものがあります。車の例をあげてみます。所得のとても低いエリトリアでは乗用車は高級品の中の高級品ですが、その多く、おそらく約6 - 7割は日本車、残りはイタリア車、ドイツ車などです。日本車の内訳は圧倒的にトヨタカローラ(約7割)、トヨタランドクルーザー(約2割)、他のトヨタ車(カリーナなど)、残りは他社の乗用車です。トヨタのディーラーが1軒ありますが、多くの場合中古車が中東などから輸入されているようです。

ちなみに家電製品は圧倒的とまではいかないまでも、日本製品はかなりの普及率です(60%くらいに思えます)。中国、韓国製品もある程度普及しています。しかし、故障は何度でも直して使うエリトリア人は、高品質だけでなく、スペアパーツが豊富だという理由で日本製品を高く評価しています。これは乗用車にも当てはまるようです。ただしやはり日本製品の値段は高めなので、奢侈品として考えられています。その代わりと言ったら語弊がありますが、日本の家電会社の名前を真似た会社の製品、例えばSONYでなくてSunny, AIWAでなくてNAIWA、さらになぜかトヨタや日産のラジオ(ロゴ付き)などが入手可能です。また、日本では見かけない日本風の名前をもった家電会社の製品もあります(Osaka Japan, NIKAIなど)。

あと余談ですが、どういうわけか北海道は函館にあるらしい「魚長」というスーパーマーケットの買い物袋がアスマラのどんな小さな商店にも置いてあります。他にもビニール袋はあるのですが、「魚長」の袋は丈夫で水漏れせずとても重宝するので、できるだけそれをもろうようにしています。

さて、エリトリア人の持つ「日本のひとびと」のイメージはそもそも曖昧ですが、概して言えば「経済大国に住む勤勉な民族らしい」というものです。ピースボートという日本の団体の主催で年に2 - 3回日本人の団体旅行者を連れてきている以外は、日本人在住者(知る限り6人)や旅行者(今まで2人見ました)もほとんどいないので、これもまた自然なことです。ただ、去年はあの「おしん」が国営放送で毎日シリーズで放映されて文字通り爆発的な人気を博したようで、困難を乗り越えて今の繁栄を築いた国の人々というイメージが一気に広まったようです。実際「日本人だ」と自己紹介すると、「おしん(どうしても「オーシャン」に聞こえますが)を見た、感動した」と言ってくれる人がたくさんいます。独立してまだ

10年、エリトリアは建国途上にありますが、「おしん」の放映には困難の中にある国民を鼓舞するという狙いがあったのは明らかです。

次回はアスマラのインフラについて書いてみます。

(森下義亜)



日本のレジ袋